

# 多職種が共に学ぶ学際的な教育環境

---

国際医療福祉大学小田原保健医療学部  
理学療法学科

# 少し自己紹介...

---

- 理学療法士
- 日本での経験
- 英語を学習するようになったきっかけの一つ
- 海外

# 学際的な教育環境

---

- 多様な専門職種が共に同じコースで勉強を行う

# 学際的な教育環境

---

- 関連する領域全般について、自分の専門のみならず、他職種の専門分野も含めて高度な知識等が要求される

# 学際的な教育環境

---

- 専門家としての共通の基礎の構築（ゴール設定や治療介入等を含めたチームアプローチの促進）

# 学際的な教育環境

---

- 共通の基礎の構築 → 他職種にも通じる知識と技術 → エビデンスの重要性

# 学際的な教育環境

---

- 共通の基礎を持ったうえでの各自の専門性の発揮

# 具体的には...

---

- 理学療法士も薬理学を高いレベルで学ぶ(国際疼痛学会が推奨している痛み関連の理学療法カリキュラムでは鎮痛薬等の薬理学の授業をカリキュラムに含めることを勧めている)



# 具体的には...

---

- 医師や薬剤師等も痛みに関連する理学療法も学ぶ

# 具体的には...

---

- 心理社会的要素も学ぶ

# 具体的には...

---

- 批判的分析の実施、evidenceの質や量の検討

# 具体的には...

---

- それぞれの専門性を活かした議論

# 学際的な学習環境の持つ意義

---

- 関連職種がそれぞれの職域に限定されない、幅広い共通の知識を学ぶことができる(ゴール設定やアプローチ等を考える際に有益である)

# 学際的な学習環境の持つ意義

---

- 異なる専門職が同じコースで勉強することで、互いの専門性の理解にもつながる

# 学際的な学習環境の持つ意義

---

- 互いの専門性の理解から、自身の専門性について深く考えることができる

# 学際的な学習環境の持つ意義

---

- 理想的な多職種連携教育の在り方